

荒木栄の歌が 聞こえる



<http://www.arakisakae.com>

解説

・・・1960年、三井三池争議の中で、
彗星のように現われ数々の歌を残した荒木栄。
争議終結2年後の62年秋。栄は、38歳の若さで夭折。

しかし、彼の残した『がんばろう』の歌は、
今も、様々な闘いの中で歌われているだけでなく、
若い世代のソウル・フラワー・モノノケ・サミットなども新たな意匠で歌い続けている。
また、70年代のプロテストソングの先駆けの一人となった高石ともやにととって、
荒木栄の存在は小さくないという・・・

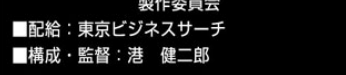
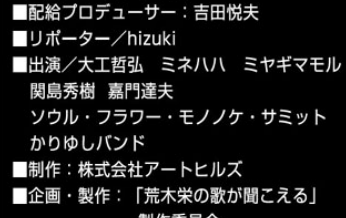
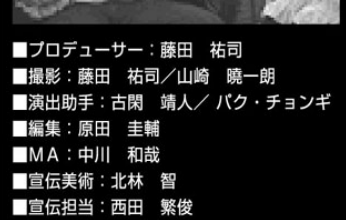
この映画は、荒木栄の生き方を探る若きシンガー・hizukiにより治いながら、
今だに歌い継がれる「がんばろう」などに籠められた
我が国の闘う労働者の想いを浮き彫りにしながら、
時代と歌のかかわりを追求していく・・・
格差社会がますます深刻化する中、明日を切り開くためにこそ、
今、人々の心をひとつにする歌の必要性が鋭く問われているのではなからうか・・・
よみがえれ!!歌。

内容

2007年春、神戸在住の若きシンガーhizukiは、大牟田出身の監督・港健二郎とともに、
あの三井三池闘争の舞台となった大牟田市を訪ねます。
三池炭鉱の石炭で発達したこの街に生まれ、三井三池製作所で働きながら
38歳で生涯を閉じるまでに70曲あまりを残した荒木栄。
その没後45周年と栄が活躍した大牟田センター合唱団の創立50周年を記念して、
『地底のうた』が歌われます・・・♪有明の海底深く 地底に挑む男たち・・・

今もなお歌われる荒木栄の歌や人柄の魅力とは何か？
hizukiたちは、栄からの影響が大きかった人々を訪ね、その謎に迫ります。
栄の職場の後輩・早瀬朝徳さんは、「歯ブラシで爪の垢を落とす」栄の几帳面さを。
高校を卒業してすぐ三池闘争中に栄と多感な時代を過ごした川上洋さんは、
栄の芸術の本質はヒューマニズム、と。
「青い空は」で知られる作曲家の大西進さんは、
栄の音楽の特質として、大衆性、戦闘性、芸術性、革命性を。
一方、沖縄民謡の大家・大工哲弘さんは、
1970年代前半の沖縄返還闘争時に歌われた『沖縄を返せ』を今も歌っています。
「沖縄へ」と歌い替えながら。
そんな大工さんが言います。「歌は保存していると古くなる。
新たに歌いかえし、日本中が、また、歌の力で一つになるのを見てみたい」。

栄の歌たちは、そのほとんどが合唱曲ですが、
この映画では、第一線で活躍するアーティストが、ソロで歌い、
栄の歌の魅力を新たに引き出しています。
これも、栄を通じて、現代社会を捉えなおしてみたいという
この映画の新しい挑戦でもあり、見所の一つです。
そして、日本のフォーク運動の生みの親のひとり高石ともやさんからは、
衝撃の証言が・・・



- プロデューサー：藤田 祐司
- 撮影：藤田 祐司/山崎 暁一朗
- 演出助手：古閑 靖人/バク・チョンギ
- 編集：原田 圭輔
- MA：中川 和哉
- 宣伝美術：北林 智
- 宣伝担当：西田 繁俊
- 配給プロデューサー：吉田悦夫
- リポーター/hizuki
- 出演/大工哲弘 ミネハハ ミヤギマモル
関島秀樹 嘉門達夫
ソウル・フラワー・モノノケ・サミット
かりゆしバンド
- 制作：株式会社アートヒルズ
- 企画・製作：「荒木栄の歌が聞こえる」
製作委員会
- 配給：東京ビジネスサーチ
- 構成・監督：港 健二郎

お問い合わせ：東京ビジネスサーチ TEL:03 (3369) 2535 E-mail:tokyjobs@ro.bekkoame.ne.jp